

果樹の雪害防止対策に関する情報（第5報）

秋田県果樹試験場

1 積雪の状況

3月5日現在、県南部の積雪深は120cm（図1 果樹試験場本場横手市）まで沈降している。

雪質の状況は図2に示すとおり、90cm以上はザラメ雪であるがその下の55~90cmに密度の高い「しまり雪」がある。わい性台樹などの下枝の一部はこの層に埋没しており、場内では既に欠損被害が確認されている（図3）。今後、更に沈降すると被害が拡大する恐れがあり、また、野そ害も拡大しているので早めに掘り上げを行う。更に、施設の破損、倒壊の発生も懸念されるので、施設周辺の除排雪など行っていない場合は早めに実施する。

3月1日発表の東北地方1か月予報では、東北日本海側は平年より降雪量が少なく、気温も高い見込みであるが、これまでの降雪量が多いので、雪害防止に留意しながら積極的な消雪作業が求められる。

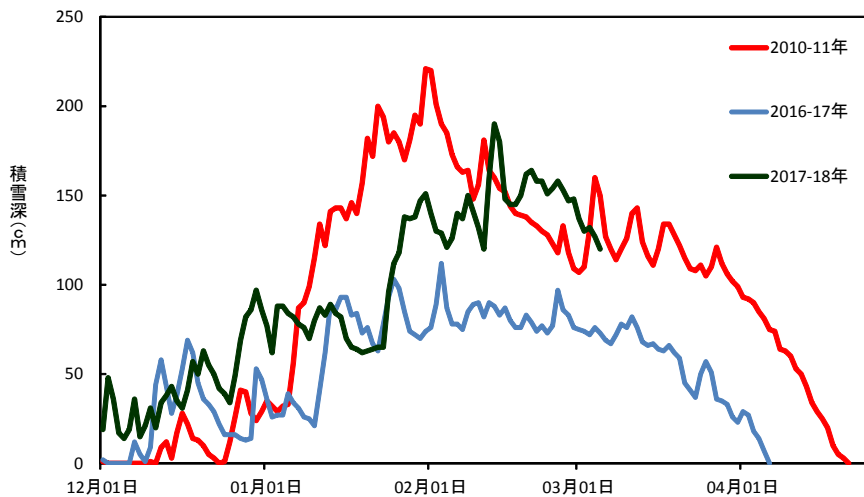


図1 積雪深の推移(果樹試験場本場 横手市)

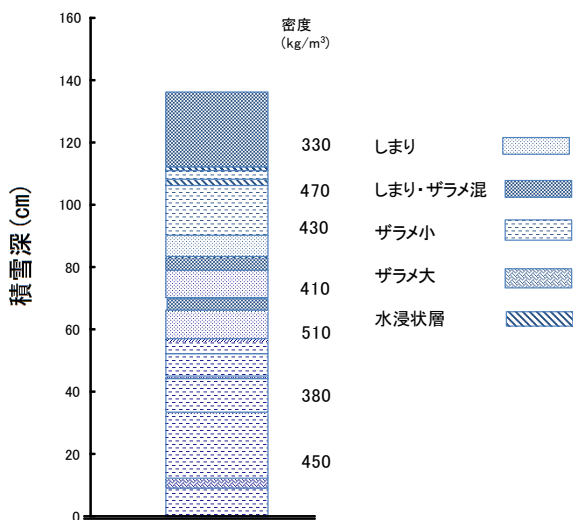


図2 積雪断面の状況  
(3月5日、果樹試験場本場)



図3 消雪が進み明らかになったリンゴわい性台樹の側枝欠損被害 (3月5日)

## 2 雪害防止対策

### ① 枝の掘り上げ

リンゴわい化樹、マルバ台樹の大枝についての側枝など、雪に埋没した下枝が積雪の沈降で枝折れするのを防ぐために、枝の掘り上げを行う。枝を掘り上げたら枝下の雪は踏み固めて枝が沈降しないようにする。

マルバの主枝、垂主枝、わい化樹の主要な下枝などがしまり雪の層に深く埋没し、掘り上げが困難な場合は、引き上げを妨げている横枝を切断して、大枝を上げて守るようにする。

不幸にも枝折れが発生している場合は、可能な限り被害部の復旧に努める。

### ② 野そ被害の防止

幼木や若木だけでなく埋没した側枝にまで既に野そ被害が発生している。枝折れ被害防止と合わせて側枝を早急に掘り上げ、今後の被害防止のため主幹部の周りをしっかりと踏み固める。

### ③ 施設の除排雪

埋もれたブドウ棚やリンゴ園のトレリス、オウトウ園の雨よけハウスなどの除排雪を行う。トレリスの鋼線、ブドウ棚の番線などが雪に埋没すると沈降力で引き下げられ施設の破損や倒壊を招くので早めに対応する。

### ⑤ 消雪剤の散布

消雪の遅れは野そ害の拡大の他、休眠期散布など春先の管理作業に支障を来し、更に雪に埋まっている枝は発芽や開花が遅れ、品質低下を招くなど生産に及ぼす影響が多岐にわたる。

このため、晴れの日が2日以上続くような日に消雪剤を散布する。

資材として木炭等を粉状にした粉炭（粒径1～3mmのもの）を用い、10 aあたり30 L程度を薄く均一に散布する。消雪剤の散布により、雪質が「ざらめ雪」に変化し、雪と枝との密着が軽減される。積雪期間に3回程度散布すれば、消雪が7日～10日程度早まる(図4)。

◎ 累積の降雪量が10mを超え、度重なる除雪作業で心身ともに疲弊していると思われます。日長時間も長くなり、今後は気温も上昇しそうです。沈降する雪に負けないようもう一踏ん張りです。ケガのないよう作業を進めましょう。

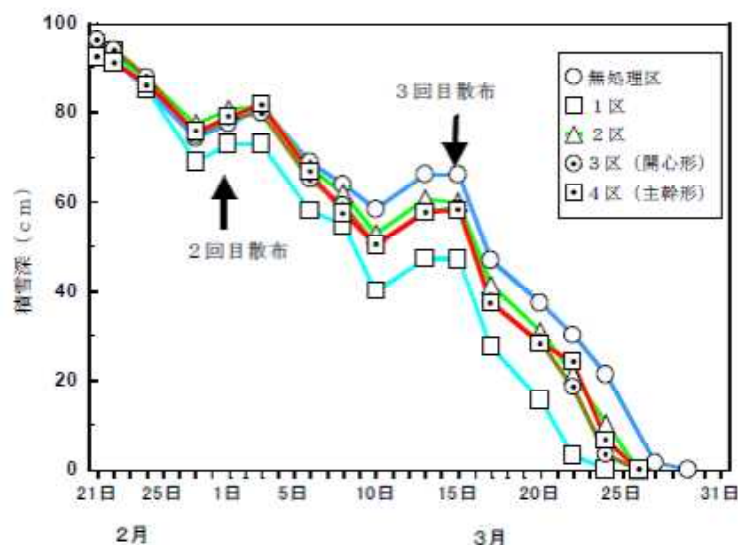


図4 消雪剤の散布回数\*が消雪日に及ぼす影響

\*散布回数：1区3回、2区および3区2回、4区1回